

まろやか短歌

明晩まどか

あじさいをきれいとかうきみが好き
今日もここでは雨が降っている

好きな人からのラインを期待するひとりの夜はちよつと
むなしい

シロップは全部おんなじ味なんだ
水の味でさえ場所がちがうのに

カシオレのオレの部分はもしかしてカフェオレのオレと
同じではない？

生命は海からやってきたらしい
お風呂の時間は単細胞気分

ポリタンク携え歩く雪道は静かで冷たいひとりの時間

マフラーを丹精込めて編んでみた
ところどころヘン
これはボツです

【解説】

まろやか短歌は、なんのひねりもない短歌を目指して
います。難しい言葉はできるだけ使わず、変にひねらず、
まっすぐ詠みます。もし、わたしの短歌を見て、そのま
まの景色が浮かんだのなら幸いです。

以下は私自身の考えです。

『あじさいを』

「今日もここでは雨が降っている」で哀愁を漂わせた
いと思えました。「きみ」はもうここにはいません。友達
か恋人か。別れたのか亡くなったのか。理由はどうであ
れ、傘も差さずにいるくらいには、悲しい気持ちです。

『シロップは』

かき氷シロップは全部同じ味、という話をどこかで一
回は聞いています。その真偽はさておき、水は
場所や地域で味が違うのに、シロップは味の違いがほと
んどない。二つの間にある差がおもしろいと思えました。

『生命は』

一番初めの生命は単細胞生物です。お風呂に浸かると
気持ちがいいのは、日本人だからなのか、それとももつ
と昔の、海での暮らしが想起されるからか。わかりませ
んが、後者のほうが、ロマンがあつて好きです。

『ポリタンク』

実家で石油ストーブを使っていたので、ポリタンクが
玄関にありました。ガソリンスタンドまで歩いて灯油を
入れに行く。信号待ちの時間が静かでさみしかつたです。
重いし歩きにくいし。でも、悪い気はしませんでした。

『マフラーを』

誰か大切な人にマフラーを編んでみました。が、不器
用なのでうまくできませんでした。祖母が編んでくれた
ものと見比べると、拙くて仕方ありません。苦笑しなが
ら、編み物セットごとゴミ箱に入れたのでした。

『好きな人』

自分から送るのはちよつと恥ずかしいし、勇気がいる。
けど、こちらから送らなければ進展しなさそう。自分に
興味が向けられていないことを理解させられる夜ほど、
苦しいものはないのかもしれない。

『カシオレの』

お酒に名前があるなんて、小さい頃は想像できなかった
たかもしれない。どちらもオレとついているのだから、
同じ系統かもしれない。そうではないと気付き、違いを
理解した時が、大人への第一歩ではないでしょうか。